



公益社団法人 岐阜県交響楽団

〒501-3133 岐阜市芥見南山3丁目7の10
 TEL<058>244-0150 FAX 244-0151
 ホームページ <http://www.ktroad.ne.jp/~gikyoo/>

ご恩返し

公益社団法人岐阜県交響楽団

副理事長 三浦 文彦



平成25年度は、私にとって忘

れることができない年となりま
 した。ひとつには、本格的なオー
 ケストラの演奏を聴く機会があ
 まり無かった私が、縁あって岐阜
 県交響楽団の役員に成らせてい
 ただけたことです。まだ練習場
 へは1度お伺いしただけですし
 理事会等を通じての参画でしか
 ない段階ではありますが、理事
 長を始め関係各位や団員の皆
 様が、熱くそして楽しく取り組
 んでいらつしやる姿に大変打た
 れました。岐阜県交響楽団の
 チャレンジ精神は、ここから発し
 ていると強く感じ入った次第で
 す。もうひとつには、岐阜県交響
 楽団にとって大変大きな節目と

なる「創立60周年」の年であり、
 その記念事業として催された記
 念公演や感謝公演は多方面か
 らの高い評価と称賛を受けられ
 たことです。私は、記念公演とし
 て演奏されたマーラーの「交響
 曲第2番『復活』」を拝聴するこ
 とができましたが、最後の瞬間
 を迎えた時の体の震えと会場の
 どよめきは、今でも覚えていま
 す。一人ひとりが思いをこめて取
 り組まれたことから生まれた当
 然の結果だと思えますが、私に
 は、この大作を選曲されたこと
 もこの年度に60周年を迎えられ
 たこともこのメンバーでいられ
 たことも、いろいろな意味で、時
 代の要請ではなかったのかと、運
 命のようなものを感じました。

冒頭でも少し触れましたが、
 私自身の音楽との関わりを思い
 起こしてみますと、出会いはた
 くさんあったのですが生かすこ
 とができず、今にして思えば、大
 変残念なことをしたと反省して
 います。小学生の時には、ピアノ
 を習っていた姉の影響で一緒に
 習い始めましたが、バイエルの赤
 本を終えるころサッカートと出会
 い早々にやめてしまいました。
 中学生の時には、担任の先生が
 音楽担当だったこともあり、依
 頼してブラスバンドに入れても
 らいしましたが、体育祭などで単
 に目立ちたいという不純な動機
 からでしたので、身につくことは
 無く半年程度で終わってしま
 いました。高校では運動部オン
 リーでしたが、大学1年生のと
 きに、仲良くなった友達から、
 オーケストラに入部したいが1
 人で行くのは気が引けるのでつ
 いてきて欲しいと頼まれたこと
 がきっかけで、先輩からの強引
 な勧誘もあり、一緒に入部して
 しまいました。彼は経験者だっ
 たので早々に馴染んでいました
 が、ほとんど初心者である私は、
 誰かに教えていただけるものと
 高をくくり、自助努力もしな
 かったため上手くなるはずもな
 く、半年ほどで他サークルへ移っ
 てしまいました。一方、入部した
 際に先輩から「ずっと同じ曲を
 聴いているだけだし、部の顧問

が担当だから気楽だよ」と勧め
 られ一般教養科目で音楽を履修
 することとしたのですが、思え
 ばこのときが一番向き合ってい
 たかもしれません。先生の選曲
 は、ブラームスの「交響曲第1番
 ハ短調」、半年間繰り返し楽譜
 を見ながら曲や楽器のことブ
 ラームスの人物像等多くのこと
 をご教授いただきました。今で
 は、すっかり忘れてしまいい楽譜
 も読めませんが、唯一CDが思
 い出として残っています。
 こんな不届きな私ですから、
 この度岐阜県交響楽団と触れ合
 う縁をいただけたのも、「ご恩返
 しをしなさい」というみちびき
 (運命)だったのかもしれないま
 ん。
 60周年を経て暦が還り新た
 なスタートラインに立ち、更な
 る高みを目指して歩み出した岐
 阜県交響楽団の新しい歴史作り
 に、微力ながらご一緒させていた
 だき、未来につなげていくこと
 が、私に与えられた役割ではな
 いかと思っています。

(十六銀行 常務取締役)



指揮者 角田鋼亮先生 インタビュー

六十周年記念公演を終え、新たな歩み出しとなる今回の定期演奏会には、角田鋼亮先生に来ていただきました。初めて岐響を指揮していただく角田先生に、たくさんお話をうかがいました。

——先生が音楽を始められたのは、いつ頃ですか？

——本当のいちばん最初は…2歳ですね。母親がピアノを教えてくださいまして、その手ほどきでピアノを始めました。(人さし指で鍵盤をたたくまねをして)始めはこうやつてね、たぶん。そして3歳からは他の先生のところで習い始めました。

——その後、どのように指揮の道に進まれたのですか？

——小学校までは、ピアノと作曲を両軸にやっていたんですけど、ラ部がありまして、そこで最初はオーボエを吹いていたのですが、中学3年生から指揮者を務めることになったんです。それで指揮を習い始めたのがきっかけで、興味がどんどん指揮に移っていった

——指揮者として活動していらっしゃる中で、思い出深い演奏会はありますか？

——先ほどお話しした中高の部活で、卒業する時の公演でしょうか。プログラムとの交響曲第一番を指揮したんです。ちょうどその時コンサートマスターをやっていた子と、ホルンを吹いていた子と、それからオーボエを吹いていた子…つまり2楽章にソロがあるメンバーですよ、その後、その子たちも皆音楽の道に進みまして、今も仕事場で会ったりするんですよ。その演奏会がとてもいいものになって、一生ものの心のつながりができただんですよ。

——あとその時の演奏会の前半で、自作のピアノコンチェルトを演奏したんです。それも、思い出に残っています。

——先生が作曲されたコンチェルトですか？

——そうです。ピアノは他の子に弾いてもらい、自分は指揮をしまし

た。記念すべきコンサートでした。

——先生が作曲された作品は、いろいろな場所で演奏されているのですか？

——うーん、その時と、卒業してからもう一度演奏してくれたんですけど…今は、演奏されていないです。もともと勉強するために作ったというのもあるので。今聴くと恥ずかしいですね。

——いや、聴いてみたいです！



——先生は、ドイツに留学してみたいということですが、ドイツではどのような生活をしていらっしゃったのでしょうか？

——ベルリンに行つてたんですけどね、音楽に囲まれた生活をしていました。朝は学校。昼はオーケストラの練習を見学して、夜はその本番を聴いて、もうとにかく、音楽つきの毎日でした。

——ドイツでは、オペラを沢山聴きに行つて、勉強しました。それは、なかなか日本ではできなかったことなので、貴重な経験となりました。

——角田先生は、オペラやミュージカル、バレエを多く指揮しているらしいですね。オペラなどの魅力ってどんなところにあるのでしょうか？

——やはり、言葉があることです。音符にそのまま具体的な言葉がつけられていて、特定の様子を表していたり、気持ちや行為を限定していたりするので、そのドラマの中に入り込めるような感じがしています。時に主人公になれるし、敵役に入り込むことだってあるし、そうやって物語を一人でたくさん楽しむことができるのが魅力だと思っています。

——そうやってオペラを勉強していると、交響曲のように物語のない

——作品でも、もしかするとこういうシーンなのかなって、イメージを膨らますことができてくるんです。だから、できるだけ若いうちに、こういった筋のある作品を勉強しておこうと思つて、意識的に取り組んでいます。

——先生の活動としては、オペラやミュージカルがほとんどなのですか？

——ミュージカルは実はそんなに多くはないんですけども、オペラも半分くらいは取り組んでいきたいなと思つています。でも、日本だとやっぱり上演数が少ないですから、なかなかチャンスが回って来なくて。でも今後は、例えば自分からプロデュースしてみたいなという思いもあります。

——今回のプログラムにもバレエ音楽の「くるみ割り人形」がありますが、その「くるみ割り人形」も含めて、今回のプログラムの聴きどころはどんなところでしょうか。

——まず、「くるみ割り人形」のほうからお話すると、これは子供から大人まで楽しめる、「メルヘンの世界」ですね。一方で、前半の二曲は、血生ぐさいというか、略奪愛だのかたき討ちだの…本当に昼ドラのような世界の作品です。で

も、ロシア人の作曲家って、そういったヴェリスモ的なものに曲をつけるということをおまわりしてこなかったんです。だから、すごく異なる存在なんです。イタリアのオペラだと結構あるんですけどね。ロシアの、あの荒涼とした景色の中でこういうことが繰り返しられているという、おどろおどろしさ。

そういう雰囲気や前半は喚ぎ取っていたみたいです。そして後半は、もう少し夢の世界へ…。対照的な話を並べていますので、それを楽しんでいただきたいと思います。

——それを我々が上手に表現できるように……。ですね。

そうですね、描き分けられるといいですよ。

——今日初めて岐響で指揮を振っていたのですが、(インタビュをしたのは初めての来団後でした)岐響の印象をお聞かせください。

しっかりとした土台のあるオーケストラだと思いました。着実に、地道に、練習をしていけば、絶対力がつくと思えます。まずは、そういった信頼関係があることが大事だと思うんです。それが分かったので、今日は十分な収穫だったと思います。また、曲の難

しさも改めて分かったので、今後の練習内容……つまりどのようにしたら効率よく練習を進められるかということを考えることができたという意味でも、今日は良かったです。

——先生、岐響のことは、知っていましたか？

もちろん知っていました。ウィーンに行かれたことや、「復活」を演奏されたことを友達から聞いていました。あと、岐響の中には、かつて共演したことがある方が数人います。

——そうなんですか！それはどういったつながりで……。

以前、岐阜大学のオーケストラを指揮した時に、エキストラでファゴットの方が吹いてみえましたよね。あとコントラバスにもいらしたかな。

——実は、角田先生の指揮された岐大オケの演奏会、聴きに行きました。

そうなんですね。ラフマニノフの2番を演奏した時かな。懐かしいなあ。熱のこもったいい演奏だったと覚えています。

だからその時に岐阜に来て、岐響のことも知っていました。岐響は演奏会の数も多いようですし、

専用の練習場もあるんですね。充実しているなあ、と思いました。

——先生の好きな作曲家は、誰ですか？



ワーグナーですね。ワーグナーは、パズルみたいなんですよ。言葉と音符の関係性が深く……。それぞれのキャラクターや感情にモチーフを与えています。何百個と。そしてそれを上手く組み立てることによって、立体的な作品を作り上げているんです。その仕組みを知ったら、高級な腕時計の身をのぞいているような感じで……こんなに細かいパーツで、全部が絡み合っている音楽の時間・空間を作り上げていけると分かると、感動します。そういう分析をすることがよく楽譜を読むということがすごく

好きなので、読み応えのある、長編小説のようなワーグナーが好きです。だけど、フランスの作品を聴くのももちろん好きです。指揮をする上では、最近イギリスの作品にも力を入れていて、今後もどんどん発掘していきたいなと思っています。

——先生は、クラシック以外で聴く曲もありますか？

ありますよ。言うところの恥ずかしいですけど、演歌とか好きです。あとは、ジャズ。また、昔は、アルゼンチンタンゴをよくピアノで弾いていて、バンドネオン(主にタンゴで用いられる楽器。アコーディオンによく似ている。)と一緒に路上ライブもやっていたので、そういうジャンルも好きです。最近では、ピリジョエル(アメリカのロック歌手・ピアニスト・作曲家)かな。好きでよく聴いています。

——路上ライブをやってみえたのですか？

やっていたんですよ、学生の頃ね。当時、ブームだったんですよ、ピアノという作曲家ね。ちょっと憧れもあって。三人とか四人で組んで、ゲリラ的にやっていたたね。楽しかったです。

——お客様にも、先生のことを少

しても分かっていただければと思います、先生ご自身のことをたくさん聞かせていただきました。ありがとうございました。

.....

4年前に指揮された岐大オケのメンバーの名前を覚えてみる、温かい先生でした。

お話の中にあつた、前半と後半の世界観を感じ取って聴いていただけのように、精一杯演奏したいと思えます。

(インタビュ…加藤美咲)



→バンドネオン
(写真はwikipediaより)

辻彩奈さんとの共演
サラザール作曲 カルメン幻想曲

♪2月8日♪

辻彩奈さんとの初練習

岐響練習場にて、彩奈さんと初対面・初練習。NHKの取材も入っており、彩奈さんの注目度が高いことを感じさせられました。練習では、彩奈さんの華麗なテクニクと熱のこもった演奏に、圧倒されました。

その時の彩奈さんの演奏に感動する、岐響団員のコメントです。

『ソロはただただ「凄いつー」の一言です。多彩な音色にも驚きましたが、テクニクの素晴らしさも圧巻でした。「どうやらこんな風に速く重音が弾けるんだ?」と思わず乗り出して左手の動きを追ってしまふほど。弦楽器の専門家ではない自分にも、その凄さが瞬時にわかりました。ただ、オーケストラのメンバーも、まだ曲に習熟していない初合わせ。客観的な眼鏡をかけた、彩奈さん扮するカルメンが軽快に踊ろうとしているのに、岐響メンバー扮するジプシー楽団メンバーがその服にぶら下がって「まだついていけないから、そんなに速く踊らんといてくれ〜」と懇願している姿が見えました。どんなテンポであろうと、いかにソリストに合わせるか?協奏曲で一番難しいことでもあり、醍醐味でもあります。今後「練習」でどう変わっていくのか、とても楽

しみです。』

岐響も頑張らなくては、と感じた初回の練習となりました。

♪3月9日♪

瑞穂市ネオクラシックコンサート



オーケストラのみの演奏で、ビゼー作曲の歌劇「カルメン」より前奏曲・ハバネラ・セギデリーリヤ・ジプシーの歌、闘牛士の歌、最終場面を演奏。

その後、彩奈さんに登場いただき、サラザール作曲「カルメン幻想曲」を演奏しました。「カルメン」のメロディが次々に現れる「カルメン幻想曲」の面白さを

味わっていたたくプログラムとしました。

♪3月23日♪

岐響ファミリィコンサート

テーマは「オペカル」。オペラとミュージカルを合わせて「オペカル」と名付けました。彩奈さんの他にも、ソプラノ歌手の八田亜哉香さん、テノール歌手の清水徹太郎さんをお迎えし、オペラとミュージカルの楽曲をたくさんつめこんだ演奏会としました。

彩奈さんとは、演奏会の前半での共演。ネオクラシックコンサートと同様、ビゼー作曲の「カルメン」から数曲演奏した後に、「カルメン幻想曲」を共演しました。

『ご来場いただいたお客様から、彩奈さんの演奏へたくさん感想が寄せられました。』

『若いバイオリニストの方の演奏がすばらしく、驚いた。スペシャルゲストが多々、豪華なコンサートでした。』

『辻彩奈さんの音色がとてもすてきでした。応援します。頑張ってください。』

『辻彩奈さんのバイオリンに感動しました。音域の幅があり、テクニクの素晴らしさに感動!!もう一度聴きたいです。今度は違った曲を数曲!!』

『今年は特に辻彩奈さんのバイオリン独奏があると、たまたま「ぎふちゃん」で見

て、是非行きたいと思ってやって来ました。前評判通り、否、それ以上に魅了されました。岐響共々岐阜の演奏家がどんどん育ち、世界に向けて発信していったと思っています。』



アンコールの「ふるさと」では、団員とともにオーケストラの席に座って一緒に演奏してくださいました。



ヴァイオリニスト 辻彩奈さん

インタビュート

3月、瑞穂市のネオクラシックコンサートと岐響ファミリーコンサートで共演させていただいたヴァイオリニスト辻彩奈さん。彩奈さんは、現在高校1年生。大垣市を拠点に、多くのコンクールやコンサートで大活躍されているらしいやいます。期待の新星！辻彩奈さんに、インタビュートにお答えいただきました。

3月、瑞穂市のネオクラシックコンサートと岐響ファミリーコンサートで共演させていただいたヴァイオリニスト辻彩奈さん。彩奈さんは、現在高校1年生。大垣市を拠点に、多くのコンクールやコンサートで大活躍されているらしいやいます。期待の新星！辻彩奈さんに、インタビュートにお答えいただきました。

今は、高校の近くに寮があるので、通学時間はかかりませんが寮や学校には練習室があるので、そこで練習します。オーケストラの授業などがあると練習時間はその分短くなりますが、平日は5時間、休日は8時間くらい練習時間を確保するようにしています。

——ヴァイオリンを始めた時期はいつごろですか？また、そのきっかけを教えてください。

——今までで、いちばん思い出に残っている演奏会のエピソードや楽曲を教えてください。

3歳から始めました。最初は、父が子供の頃使っていた古いヴァイオリンに触っていたのがきっかけのようです。

私の一生の思い出の曲は、サン・サーンスの「序奏とロンド・カプリチオーソ」です。この曲は、全日本学生音楽コンクールの全国大会で1位を頂いた時に演奏しました。小学校6年生の時です。前年、小学校5年生の時に、ブルッフのヴァイオリン協奏曲第3楽章を演奏したのですが、入賞できませんでした。その時に審査委員との講習会で、審査委員長の先生から、「もつとスケールの大きな演奏を」と言われまして。スケールの大きな演奏ってどんな演奏だろうと1年間考え、自分が本当に好きな曲を演奏することがスケールの大きな演奏に繋がると考え、指導の先生からはメンドルスゾーンのヴァイオリン協奏曲を弾いたらどうかと勧められました。自分の好きな「序奏とロンド・カプリチオーソ」で、と自分の考えを押し通しました。良い結果につながり、それ以来思い出の曲となりました。

——学校生活との両立が大変だと思いますが、ヴァイオリン

かなかそのような心境になりませんが、これから何年かしたらそう思えるように精進していきたいと思います。

——岐響との初共演の感想を教えてください。

団員の方々がとても親切で、とても演奏しやすかったです。

——今後、岐響との共演の機会があれば、演奏したい曲などありますか？その理由も教えてください。

できれば、チャイコフスキー、シベリウスのコンチェルトを共演させていただけると嬉しいです。チャイコフスキーは何回弾いても嬉しくなりません。またシベリウスは第2楽章の人間愛を表現する感じがとても好きです。

——ヴァイオリンをやっているよかつたな、と思うことは、どんなことですか？

まだ勉強中の身なので、な

か？

食べることです。

——彩奈さんの、好きな言葉は何ですか？

「努力は裏切らない。」

——最後に、今後の彩奈さんの目標や夢を教えてください。

さらに精進し、海外のコンクールにも挑戦したいと思いません。また、夢というわけではありませんが、私を支えて下さるすべての方々に感謝し、地元で愛される演奏家になりたいと思います。

「努力は裏切らない。」の言葉に、本番直前までずつと、彩奈さんの楽屋からヴァイオリンの音が聴こえていたのを思い出しました。今後の彩奈さんの活躍、岐響との共演をお楽しみに。

演奏活動の喜び、そして使命

岐響トレーナー・コントラバス奏者 田中陽治

■団員の「ある一日」

- ・8時 県庁前をバスで出発、練習場を経由し、東海北陸道を通って白川村へ。
- ・11時 白川中学校到着。すぐにトラックから楽器を降ろし、体育館の会場設営。
- ・12時から1時間のリハーサル。(前夜3時間の練習済み。会場の響きと進行を確認)
- ・13時30分本番スタート、15時に終了。
- ・すぐに着替え、会場片付け、楽器積み込みを終えてバス出発。18時練習場で楽器おろし、その後県庁へ。解散。

昨年、大野郡白川村で開催した創立60周年記念感謝公演当日の団員の動きです。演奏会ではご来場の皆様にとっても喜んでいただき、また私たち子どもたちの笑顔いっぱい元気な歌声、そして最後に会場に響き渡った「ふるさと」大合唱に心から感動しました。休憩時には多くの子や村の人たちがオーケストラの中に入って団員と交流し、楽器を間近に見て触ったり演奏したり。指揮進行を担当していた私も「後半を始めるよ」となかなか言い出せない、何とも幸せなひとときでした。

会場から約10分の世界遺産・白川郷は翌

日の仕事等もあつて残念ながら訪れることができませんでしたが、帰りのバスの中はみな演奏会の心地よい余韻に浸り、子どもたちの笑顔や元気な歌声をピロルの肴に(いや、帰りの運転のためウーロン茶多数!)岐阜に戻りました。

■私たちの演奏活動の全体像

昨年度、私たちは次の10回の演奏会を行いました。

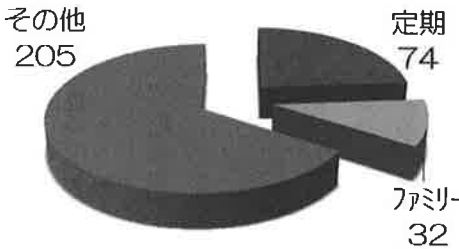
- 4月 御嵩町(小中高生、町民)
- 5月 白川村(小中学生、村民)
- 6月 岐阜市芥見(地域住民)
- 6月 各務原市(市民全般)
- 11月 60周年記念公演
- 12月 富加町(小中学生)
- 12月 笠松町(就学前児童親子)
- 2月 羽島市(幼稚園児親子)
- 3月 瑞穂市(市民全般)
- 3月 ファミリーコンサート

昨年は創立60周年の記念の年で、例年なら年2回開催する定期演奏会を1回にして大曲に取り組むなど特別な面もありましたが、一年間の流れとしては毎年、ほぼ同

じょうに活動を積み重ねてきています。

自分たちが主催して、日頃の練習の成果を聴いていただく定期演奏会とファミリーコンサート(自主公演)。そして県内各地域、学校等を訪問してオーケストラ音楽の楽しさを身近に感じていただく演奏会。私たちの活動はこの二つに大別できます。

次の円グラフは、60年の歴史をもつ岐阜県交響楽団が、社会的な使命を担い始めた昭和50年の社団法人化以降今日までに行ってきた演奏会の回数と内訳です。総数はなんと311回!



【昭和50年4月からの演奏会回数・内訳】

しかし私たちは、自主公演以外に、日頃オーケストラに触れる機会が多くない方や子どもたちを対象にした演奏活動も数多く行ってきました。そして身内の私が言うのも変ですが、特筆すべきはこういった演奏会に出かけることにみんなが喜びを感じているという事実です。特に91年から16年間続いた「へき地児童生徒芸術フェスティバル」は演奏活動の喜び、生きがいを実感させてくれた実に思い出深い県の事業で、私たちの活動の大切な礎になっている気がします。

そして：毎週土曜日の夜は18時30分から3時間の練習で一年中家にいない。日曜日も年数回の演奏会に加え、同じくらしい特別練習もあつて家にはいない。家族の協力がなければ、いや、家族の深い理解と支え、そして活動への共感がなければ続けられるものではありません。その意味で私たちの活動は家族も一体となつて積み上げてきているものであると言えます。

■思いつくまに

私が初めて岐響の舞台にのつたのは74年、18歳の時でした。といつても、この年に初めて合唱団を公募して行われた「第九演奏会」の合唱団員としてです。長良公民館で初めてオケと合わせたときの感激は今も忘れません。近年、日本全国で第九演奏会がとても盛んになっていますが、当時は珍

しく、岐響はその後78年から83年まで地元合唱団と継続するなど全国の先駆者としての役割を果たしました。(当時の指揮者朝比奈千足氏の父君・朝比奈隆氏が岐阜市民会館2階席で鑑賞されたことも)。そしてその後も、合唱だけでなくバレエ団や邦楽団休、さらに地元出身の演奏家との共演を数多く積み重ねるなど、岐阜県の音楽文化の活性化に大きな力を発揮してきています。

ベース弾きとして初めて岐響に加わったのは20歳の時の「記念演奏会」。前半は私の指揮の師匠・松尾昌美先生の棒でチャイコフスキーの交響曲第5番、そして後半は團伊玖磨氏指揮による交響詩「長良川」。岐阜市の委嘱作品初演でした。大学に入るまで声楽を志していた私にとつて、当時ソプラノのわが国第一人者で、レコードの溝が擦れるほど聴いたオペラ「夕鶴」の主人公つう役・伊藤京子さんがソリストだったことも大感激。夢のようなひとときでした。…。

この「長良川」はその後、ウイン公演、東京公演を始め、記念となる機会を中心に演奏してきており、94年には姉妹県・鹿児島で行われた交流演奏会で、現在第2バイオリントップ・中谷恵子さんのソプラノソロと私の指揮による「手作り長良川」(?)も実現。光栄でした。

こういった委嘱作品は他に2曲あり、「長良川」とともに岐響の大切な財産となつて

います。創立40周年記念で藤掛廣幸氏に交響曲「岐阜」、50周年には池辺晋一郎氏に「夢の跡」を作っていただき、サントリールホール公演ではオール委嘱作品プログラムを組みました。今後自分たちの宝物として、大切な節目等に取り上げていくことになるだろうと思います。



さて、第九演奏会が一段落した80年代半ばから、演奏技能の一層の向上を目指さなければという気運が高まりました。そして岡田司氏による「ベートーベン交響曲シリーズ」が始まり、またその少し後からは、日本を代表する演奏家を各パートに招いて小泉和裕氏の指揮のもと一緒に演奏しながら

ら指導を受けるという贅沢の極み「古川合宿」が始まります。危機感と目的意識をもった取り組みが演奏への意識や技能を一段また一段と高めていった気がします。

そして昨年ご逝去された名誉指揮者・小松一彦氏にご指導いただくようになったのもこの時期からでした。「題名のない音楽会」「名曲アルバム」など、テレビの世界の方が目の前で棒を振ってくださる、初期はそんな不思議な感覚でしたが、あつという間に団員との距離が縮まっていきます。アマチュアだからと妥協せず、常に全力で大声を張り上げながら私たちに体当たりしてこられる「熱さ」が伝わってくるからです。現在も練習室の入口扉には小松先生の写真と「自分に妥協するな!」との遺訓が貼られ、みなその扉を開けて練習室へ。きつとこれからも私たちがいつも叱咤激励し続けられることでしょう。

■終わりに

「岐響の演奏にすごく感動した。今度はプロで聴いてみたい」という言葉にいたく感動したことがあります。「より上手な演奏で聴きたいから」ではなく、「私たちの演奏への感動がきっかけになった」からです。アマチュアオーケストラである岐阜県交響楽団が存在する大きな価値がそこにあると私は考えます。

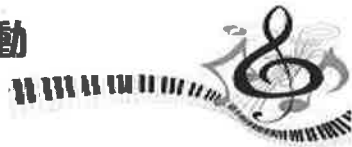
自主公演でプロから厳しい指導を受けて

演奏能力を磨き上げる。そしてその力を最大限に発揮して県内各地で演奏し、オーケストラ音楽の喜びを感じてもらおう。このスタイルによって皆様により深く感動していただける演奏を創り上げていく決意です。どうか今後ともご支援のほどよろしくお願いたします。





岐響の演奏活動



岐響は、自主公演だけでなく、もっとたくさんの方に岐響の音楽を聴いていただきたく、依頼公演も行っています。幼稚園児のためのコンサートや小学校での演奏会、地域の方をお迎えしてのコンサートなど、様々な依頼公演の中から、最近の岐響の演奏活動を紹介します。

2月16日 幼稚園児親子コンサート(羽島市文化センター)

岐阜県各地の幼稚園児親子を対象とした演奏会でした。プログラムも、幼稚園児が親しみやすい曲を選曲。たくさんの方に聴いていただけるよう、1日に2回公演を行いました。



指揮者は、前ページの田中陽治さんです。幼稚園児の子向けのお話も、とっても分かりやすいです。親子で音楽を楽しんで聴いてくださる姿に、岐響も楽しく演奏することができました。ありがとうございました。

♪プログラム♪

- ・カルメン前奏曲／ビゼー
- ・アンパンマンマーチ／三木たかし
- ・楽器紹介
- ・シンコペーティドクロック／アンダーソン
- ・「大きな古時計」の主題による変奏曲／田中陽治
- ・崖の上のポニョ／久石譲
- ・指揮者コーナー 崖の上のポニョより
- ・「うたのどうぶつえん」／田中陽治
- ・アンコール「あいあい」



指揮者コーナーでは、たくさんの子が「はい！」と元気に手を挙げてくれました。

今後も、さまざまな演奏活動を行っていきたいと思います。お近くの際には、ぜひ、足をお運びください。